

変わらないもの

1. 変わらないもの

長く変わらぬ技術が身近にあった。酸化アンチモンである。

ご存じの通り、プラスチックの難燃化のためにハロゲン化合物と共に使われる。第二次世界大戦時にパイロットの焼死を防ぐことを目的に開始された研究が発端と聞く。その後、臭素系化合物と酸化アンチモンの組合せが見いだされ、電気製品や建材等でのプラスチック普及に伴い、難燃要求の高まりに沿う形で利用が拡大した。

ところが欧州で、埋立場の廃プラから流出した臭素系化合物による環境汚染が問題視されるようになった。対応策としてリン化合物や金属水酸化物が登場、臭素にとって代わるかに思われた（一部ではさらには非臭素非リン系、難燃剤フリーまで・・・）。

筆者も20年以上そういった技術に関わってきた。

ところが今年に入り、なぜか酸化アンチモン不足に悩まされている。原料メタルの最大産出国が輸出を厳しく規制して混乱が生じたのだ。一説には、ある国の高関税政策やハイテク輸出規制に対抗したと聞く。

しかしながら太陽電池の最大輸出国であるかの国ではガラスパネルの透光率向上を目的に酸化アンチモンを使用しており、北の隣国からの輸入が侵略戦争に対する欧米の経済制裁で滞ったため自国産の輸出を止めた、という側面もあるようだ。

臭素系化合物でさえ時代とともに変化しているのに、酸化アンチモンだけは変わらない。足元を気にしてややもすると小手先の改良だとか特殊解探しに傾倒しがちだが、腰の据わった研究で得られる基盤技術の大切さに改めて気づかされるところとなった。

（難燃材料研究会 運営委員 三枝）

2. 第11回難燃シンポジウム 参加登録募集中

2025年9月17日（水）、日本大学駿河台キャンパスにて「第11回 難燃シンポジウム」が開催されます（オンライン参加も可能）。建築材料の難燃化や防耐火試験の最新動向を中心に、国内外の技術・規制情報が集結！

注目は、Inovia Materials LLCのJeff Xu博士による招待講演「新規イオン液体系難燃剤」。PC、PET、PMMA、PA、TPUなど多様な樹脂への適用事例を解説いただく予定です。

■ 日時：2025年9月17日（水）10:00～17:30

■ 会場：日本大学理工学部駿河台校舎タワー・スコラ（+オンライン）

■ 詳細・申込：<https://sfrm.or.jp/2025/07/08/2025-11th-fr-symposium-outline/>

皆さまのご参加をお待ちしています！

3. N-PLUS事前来場登録 受付中

当会では、今年も製品開発技術展「N-Plus」（10/15-17、東京ビッグサイト）に出展いたします。

今回は、株式会社ADEKA様、協和化学工業株式会社様、株式会社DJK様、東ソー株式会社様との共同出展です。

ぜひご来場いただき、情報交換の機会として有効活用いただければとおもいます。現在、N-Plus公式サイトにて、事前来場登録が可能ですので、ご関心のある方はぜひご予定ください。

▼N-Plus公式サイト

<https://www.n-plus.biz/>

▼展示会ニュース Vlo.2（出展者一覧掲載）

https://www.n-plus.biz/common/pdf/2025_news02.pdf

4. 第11回 難燃・共同セミナー 開催日決定

日本難燃剤協会との共催による「難燃・共同セミナー」を、11月28日（金）に連合会館（御茶ノ水）で開催いたします。

現在、プログラムなど詳細を調整中です。

ご案内の準備が整い次第、あらためてお知らせいたしますので、ぜひご予定ください。

▼メルマガアーカイブはこちらから

<https://sfrm.or.jp/mailmagazine02/>